

## 一、ベテスダの池の病人

1〜2節に〈その後、ユダヤ人の祭りがあつて、イエスはエルサレムに上られた。さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があつて、五つの回廊がついていた。〉とあります。「羊の門」の近くに、すなわち神殿の北側に「ベテスダ」と呼ばれる池があつたとのことです。19世紀後半にエルサレム神殿の跡の発掘が進み、ヨハネの福音書に書かれているとおり、二つの池と五つの回廊の跡が見つかりました。イエスの時代、そこには大ぜいの病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが伏せていました(3節)。なぜ、大ぜいの病人がいたのでしょいか。その説明は4節に書かれています。4節は、元々は無かつた文章で、福音書が発行された後、そのままでは意味が良く分からないので付け加えられたようです。新改訳聖書は脚注に書かれています。〈主の使いが時々この池に降りて来て、水を動かすのであるが、水が動かされたあとで最初に入った者は、どのような病気にかかつている者でもいやされたからである。〉とあります。その場所に、主イエスがお出でになりました。なぜ、立ち寄られたのでしょうか。

主イエスは神から遣わされたお方であり、御子であり、キリストです。ということは、神が、ベテスダの池の周りに横たわっていた病人や障がいを抱えている方を訪ねられた、と読むことができます。病人や障がいを抱えている方はだれか。それは、私たち一人ひとりに重ねることができません。あるいは、私たちが主イエス・キリストによつて遣わされる者として(↓ヨハネ20・21、マタイ25・40)、派遣されることです。

では、何のために神はキリストを、そして私たちを遣わされるのでしょうか。それを知るために、神が、御子イエス・キリストにおいてなさったことを見てまいりましょう。イエスは、大勢の病人や障がいを抱えている方の中で、なぜか、ひとりの人の所に行かれました。5〜6節です。〈そこに、三十八年もの間、病気にかかつている人がいた。イエスは彼が伏せているのを見、それがもう長い間のことなのを知つて、彼に言われた。「よくなりたかいか。」と書かれています。主イエスは、〈彼が伏せているのを見、それがもう長い間のことなのを知られました。そして、主は病人に言われました。〈よくなりたかいか。〉と。どうして、このような声をなされたのでしょうか。ある信頼できる注解書は、これは、さぞいやされたいと思つていようとの同情の言葉であつて、ほんとうにいやされたいのかと質問したのでは

なく、また彼に注意と期待を起こさせるためのものでもなかつたと解説しています。的を射ていると思います。すなわち、イエスは深い同情を寄せられたのです。しかし男は希望を失つていました。かつて、男はいやされたいがために、ベテスダの池に連れて来られました。親か、兄弟か、友人が運んできたのでしょうか。ですが、次の日から同じ光景を繰り返し目にすることになります。それは7節に書かれています。

〈病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。〉」いやされたいがために、ここにいます。しかし水が動いたときに、皆がわれ先にと池の中に入ろうとする。だれも自分を池の中に入れてくれる人がいない、という現実です。彼にはどうすることできません。そういう姿を知つて、イエスは深い同情を寄せられました。そして、神は主イエス・キリストにおいて語られました。8節です。〈イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。〉と。すると、9節です。〈すると、その人はすぐに直つて、床を取り上げて歩き出した。〉のでした。

## 二、聖書に聴く

この聖書箇所は私たちに何を語つているのでしょうか。今一度、8節をご覧ください。

ください。〈イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。〉」ここで書かれている「起き(なさい)(エゲイロー)」は、実は「よみがえりなさい(エゲイロー)」と同じ言葉です。福音書記者は、いやしの奇跡の物語を、自分たちが置かれている教会に重ねています。ヨハネ福音書が発行された当時、教会はユダヤ人から迫害を受けていました。ですが、主イエスは言われました。「あなたがたは、世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝つたのです」(ヨハネ16・33)と。すべての人は人生において患難に遭遇します。信仰者は信仰の故の苦難を味わうことになります。ですが、主は言われました。「わたしはすでに世に勝つたのです」と。ということ、は、主イエスに続く者は、この世の誘惑、この世の悪に勝つことになります。どうやって、世がもたらす悪に、罪がもたらす悪に、すなわち悪魔に、打ち勝つのでしょうか。それは、復活の命によつてです。信仰者は世にあつて生きています。患難、苦しみ、危険のある世に生きています。ですが、同時に、神の国に生かされているからです。主は「起きなさい」、すなわち「よみがえりなさい」とおっしゃいました。主イエスを信じますと、立ち上がるのできなくなかった自分が、立ち上がるようになります。